



条例制定に向けた検討経過



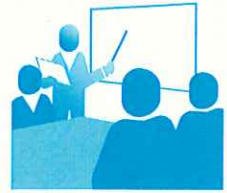
松江市議会

政策条例研究会

平成26年5月



条例制定に向けた政策条例研究会における検討経過



《第1期 政策条例研究会 H24.9～H25.4》

計7回の研究会を開催して調査研究等を進め、条例のテーマと条例案策定の作業工程を決定し、次期研究会へ引き継ぎました。

H24.9 松江市議会では、松江市議会基本条例の本旨に則り、政策提言及び政策条例の策定を目指し、各会派から選出された議員11人による政策条例研究会を設置してその取り組みをスタートさせました。

H24.11 松江市の抱えている課題・条例テーマについて各委員がプレゼンテーションをし、9つのテーマの提案をもとに意見集約をした結果、自転車の安全な利用の促進に関することに絞り研究を進めていくことを決定しました。

H25.1 (一財)地域開発研究所の牧瀬稔先生を招いて、条例策定作業の進め方についての勉強会を開催し、具体的な手順や作業にあたっての留意点などについて学習しました。

H25.2 これまでの議論を踏まえ、まとめとして、条例のテーマ「(仮称)自転車の安全な利用の促進に関する条例」と、条例案策定までの作業工程の二つを決定事項とし、改選(平成25年4月)後の議会へ申し送りしました。

《第2期 政策条例研究会 H25.7～》

今年5月までに計10回の研究会を開催したほか、途中、二つの部会に分かれての調査研究作業を行い、「松江市自転車安全利用条例」(案)を作成しました。

H25.7 改選後の新委員での研究会において、引き続き前研究会の決定事項について議論を深めていくことを確認し、また、第1部会(7人)、第2部会(4人)の二つの部会を設置して調査研究作業を進めていくことを決定しました。

H25.8～H25.10 部会ごとの調査研究作業

第1部会では、条例の必要性を示す定量的データ(※1)を収集するための聴き取り調査等と、定性的データ(※2)を確認するための現地調査(3箇所)のほか、実際に観光地周辺を自転車走行して通行環境のチェックを行いました。

第2部会では、自転車の安全に関わる他都市の条例を入念に調査し、それぞれの特徴的な項目や必要な項目などを拾い出した一覧表など、本研究会の条例案文の参考資料を作成しました。

H25.11 両部会の調査結果報告により情報共有を行い、自転車利用者の実態や通行環境整備の必要性、また松江市の自転車の分担率は全国平均より高いという事実に鑑み、自転車の安全利用に関する条例の策定は必要であることを再確認しました。

H25.12 両部会の調査結果を基に、条例の骨子案に入れるべき条項を決定しました。

H26.1 骨子案に入れることが決定した条項の具体的な内容に関する議論を行い、条例の骨子素案を作成しました。

H26.2 警察署、自転車商協同組合等からの骨子素案に対する意見聴取の結果などをもとに議論を行い、条例骨子案を作成しました。

H26.4 条例骨子案についてのパブリックコメントや各関係団体への説明会等で頂いた意見をもとに議論を行い、条例骨子を作成しました。

H26.5 条例骨子をもとに条例案及び条例の逐条解説案を作成しました。

(※1) 定量的データ

定量的データとは、数値で表すことのできるデータのことです。

【調査の結果分かったこと】

①松江市では、島根県よりも全交通事故に占める自転車関連事故の割合が高い。

松江市 13.8% > 島根県内 10.3% (平成 24 年)

②松江市の自転車関連事故での負傷者は、年齢別では 65 歳以上の高齢者と中高生や 20 歳代が多くなっている。

65 歳以上 19.8% > 中学生 17.3% > 20 歳代 14.8% > 高校生 13.6% > 40 歳代 11.1%

③松江市の自転車関連事故の状況としては「出会い頭」「右左折時」が特に多い。

出会い頭 54.3% > 右左折時 27.2% > 正面衝突 5%

④松江市における自転車保有台数は、近年の防犯登録数から推計すると約 11 万 2 千台である。

⑤自転車の T S マーク付保険 (1 年) については、購入時に加入する人は多いが、1 年後の継続申し込みはほとんどない状況である。

⑥自転車の交通安全教室についても、地区や学校で開催してはいるが、実施内容や回数にはレベル差がある。

(※2) 定性的データ

定性的データとは、物事の性質を捉えたデータのことです。

本研究会では、交通法規等の遵守や自転車利用のマナー、自転車通行環境の整備状況について3箇所での現地調査及び委員自ら自転車に乗って状況の確認をしました。

【調査の結果分かったこと】

① 自転車交通安全教育や広報活動の必要性がある。

法規遵守の意識が低い。(イヤホン使用や並列進行、信号無視や斜め横断があった。)

② 柔軟な整備手法の確立が必要である。

狭隘かつ拡張できる土地がない道路など、画一的な手法が取れない場所も多い。

【現地調査の様子】

① 松江工業高等学校付近 (H25.10.2 AM8:00 頃)



② 月照寺橋付近 (H25.10.3 AM8:00 頃)



③ 島根大学付近 (H25.10.4 PM6:00 頃)

